☆主の公現（１月３日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（イザヤの預言　６０章　１－６節）

　起きよ、光を放て。
あなたを照らす光は昇り
主の栄光はあなたの上に輝く。
見よ、闇は地を覆い
暗黒が国々を包んでいる。
しかし、あなたの上には主が輝き出で
主の栄光があなたの上に現れる。
国々はあなたを照らす光に向かい
王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。
目を上げて、見渡すがよい。
みな集い、あなたのもとに来る。
息子たちは遠くから
娘たちは抱かれて、進んで来る。
そのとき、あなたは畏れつつも喜びに輝き
おののきつつも心は晴れやかになる。
海からの宝があなたに送られ
国々の富はあなたのもとに集まる。
らくだの大群
ミディアンとエファの若いらくだが
あなたのもとに押し寄せる。
シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。
こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3 章 2、3b, 5-6 節）

あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいありません。秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

福音朗読（マタイよる福音書　2章　1－12節）

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　新年あけまして　おめでとうございます。今年こそ良い年でありますよう祈ります。今日の主日は東方の博士たちに代表される異邦の民にイエスが現わされたことを記念します。イスラエルという民族の範囲から一気に全世界への公現なのです。現代では単なる教会の範囲を超えて多くの民にイエスが告げ知らされていることを宣言する日でもあります。私たちにはこの喜びの福音を多くの人に告げ知らせる務めがあることを思い起こし、気持ちを新たにいたしましょう。

第一朗読（イザヤの預言　６０章　１-６節）

　「第三イザヤ」とも呼ばれる部分が読まれています。イスラエルの民がバビロンから解放された時期に帰国した民に告げられたものと言われています。これを読むとマタイ福音に描かれている東の国の博士たちの訪問がどういう意味を持ったものだったかがわかります。夜の闇を切り裂いて現れる日の光のように主の栄光が現れるのです。そしてそれを合図にするかのように多くの民々が押し寄せてくるさまが描かれています。皆がその現れを待ち望んでいたのです。これこそが私たちの世界のあるべき姿なのです。今私たちはそれに向かって歩んでいます。その歩む姿には喜びが輝いているでしょうか。心はいつも晴れやかでしょうか。私たちの喜び輝く姿を見て人々はその喜びはどこから来るのでしょうかと尋ねるでしょう。これこそが私たちの宣教の秘訣なのです。

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3 章 2、3b, 5-6 節）

　ここでパウロは異邦人の使徒となる啓示を受けたことを述べています。「秘められた計画が啓示によって私に知らされました」と言っているのです。

「異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものを私たちと一緒に受け継ぐ者」となったことをです。ですから私たちは独りよがりな、偏狭な選民意識を捨てて、より多くの人々の救いのために働かなければならないと訴えているのです。ですから私たちの生活は単に自分の救いのための生活ではなく、神の恵みによって多くの人に開かれた信仰の姿を現さなければなりません。信仰の姿とは神を信じている喜びの姿のことです。

福音朗読（マタイよる福音書　2章　1－12節）

　マタイはイエスの救いの光が異邦の民にもうすでに輝いていることを、博士たちの訪問を通して伝えています。マタイ福音はユダヤ人たちに向けられて書かれたものと言われていますが、その冒頭ともいうべきところでそれを宣言しているのです。それに対して土地の王であったヘロデは自分の地位が脅かされることに恐怖を覚えて、幼子たちの殺害に踏み入るのです。これは単にヘロデ王だけの心理状態ではありません。私たちも狭い心を持ち続けるならば、同じような過ちに陥ります。イエスの掟は「主である神をだれよりも愛すること」です。そしてそれは具体的には「隣人を愛すること」なのです。主義主張、拝む対象が違うからと言って、私たちこそ本当の神を知っていると言って隣人愛に背くならば、それこそイエスの掟に背くことになります。また、博士たちはヘロデとの約束、ヘロデのもとに再び訪れるという約束を捨てて、自分の国に帰りました。これは悪からの誘いを断って、正しい道、主から示された道を歩むことが神の国に至る道であることを指しています。ですから、誘惑の誘いを退ける決断が必要です。
始まった新しい年に、神への道を探しましょう。「探せ、そうすれば見出す。」とイエスは言われました。博士たちは知らずに神の救いを探していたのです。そしてそれを見つけたのでした。このコロナの時代にあっても、私たちも神への道を探し続けましょう。そうすればコロナの問題も喜びに変わるに違いありません。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光